ふっさ 広報

七夕まつりキャラクター
「たっけー☆☆」
FUSSA

平成19年(2007年)
8月1日　No. 740

発行/福生市　編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511（市役所代表）
毎月1日・15日発行

ホームページ http://www.city.fussa.tokyo.jp/

今号の主な記事
2面市職員募集、バナー広告を掲載しませんか　3面納期内納税にご協力を　4面バリアフリーの推進
5面多摩川カッパまつり参加者募集　6面福生人物列伝連載開始　8面拝島駅自由通路が通行可能になります

中学生が語る戦後のふっさ

―平和のつどい記録集を読んで―

ご参加ください

平和のつどい

20回目となる今年は、市内の中学生7名に、過去5年間の「平和のつどい」記録集を読んだ感想文を発表してもらいます。その後、今まで「平和のつどい」を企画してきた企画委員との語り合いの場も予定しています。

日時8月12日(日)午後1時開場、午後1時30分開演
場所市民会館小ホール（つつじホール）※入場無料
問合せ総務課法制総務係

企画委員
青柳福治氏、坂本丁次氏、原嶋卓美氏、山崎茂男氏

平和のつどい記録集「総括」より

昭和の中で最も大きなターニングポイントとなりました昭和二十年。この二十年代は福生にとってどういう時代だったのか。その激動の時代を語り継ぐのがこの「つどい」の源泉だったと思います。

「市民が語る戦後の福生（昭和二十年代）」は戦争抜きにしては語ることができません。戦争を知らない世代に、戦争をどう伝えるのかというのも大きな課題でした。

野澤市長は、まちの礎（いしずえ）を築いた人の話を聞いて、これからの市を考えたい。つどいでの発言を福生の将来に生かそうとしています。

これまで五回、計二十人の方に昭和二十年代のそれぞれの体験、思い出などを語っていただきました。戦中の疎開、戦後の引き揚げ、復興、占領軍、米軍基地、教育、商工業、農業、青年団活動など、多くの分野に及びました。

（中略）

二年前のこのつどいが、ちょうど八月十五日に開かれたものですから、発言者に終戦の日について聞きました。その答えから昭和二十年代は昭和二十年八月十五日を境に国の姿、人の生き方、考え方が大きく変わったことがはっきりしました。

昭和二十年代を語るのが建前なんですけれども、太平洋戦争開戦の昭和十六年までさかのぼったり、昭和三十年代まで及んだ話もありました。

それは、「昨日があるから今日があり、今日があるから明日がある」という語りで昭和二十年代の福生をより深く理解するのに役立ったように思います。

（中略）

今は先行きの見えない混迷の時代です。激動の昭和二十年代に学ぶことは尽きそうにありません。戦後の復興も、今は歴史になりつつあります。

五回にわたりました「市民が語る戦後のふっさ（昭和二十年代）」から、私は「激動の時代を生き抜いた知恵」が導き出されることを心から願って、総括といたします。

平和のつどい記録集

この記録集は、平成14年度～18年度までの「平和のつどい」で市民の方がそれぞれの体験談を講演した内容の記録集です。

昭和20年代の写真や年表も盛り込まれたB5版188ページの冊子です。頒布については、総務課法制総務係に問い合わせてください。

広報ふっさ紙面にＳＰコードを導入します

視覚障害者の情報ツールとして開発された二次元シンボル「ＳＰコード」（下図参照）を広報ふっさの紙面に試行的に導入します。ＳＰコードは縦横18㎜の大きさに、日本語で約800文字の文字データを納めることができ、専用読取装置を使うことで、コードに記録されている文字情報を音声で聞くことができます。

当面は毎月1日号に連載している野澤市長の随想「きんもくせい」をＳＰコード化していきますが、今後様々な記事をコード化し、掲載していく予定です。

問合せ秘書広報課広報広聴係

第57回福生七夕まつり8月2日(木)～5日(日)

くわしくは、七夕まつりのパンフレット、または市のホームページをご覧ください。問合せ七夕まつり実行委員会事務局（地域振興係）

●市役所は、七夕まつり期間中のため8月4日(土)は閉庁します。問合せ企画調整課企画調整担当

きんもくせい

福生市長 野澤久人

市表彰式にて

七夕と平和のつどい

今号を読まれる頃は、七夕まつりの最中でしょう。

57回という歴史と、1年以上かけての準備段階から、部会の皆さん、当日のボランティアさんを含んで多くの方の力が結集して、立派な七夕まつりが進んでいることでしょう。本当にありがとうございます。

次の週12日(日)には「平和のつどい」が開かれます。戦争が終わってからの10年、昭和20年代を、当時まだ少年から青年であった皆さんに、5年にわたって話していただきました。

そのまとめの本「市民が語る戦後の福生（昭和二十年代）」が刊行しました。この機会に、現在の中学生がこの内容を読んでどのように感じるかを知り、どのように「想い」は受け継がれていくかを考えてみたいと思います。

今回の「平和のつどい」は、7名の中学生の発表とつどいの実行委員をしてくれた4名の皆さんが話し合います。平和への願いをこめて話していただいたことが、どのように伝わっていくか、伝えることができるか、耳をすませて聞きたいと思います。